

## 令和2年度第2回練馬区在宅療養推進協議会認知症専門部会会議要録

- 1 日時 令和2年10月29日(木) 午後7時~9時
- 2 開催方法 Web会議システムによるオンライン開催
- 3 出席者 <委員>  
石黒委員、田邊委員、塚本委員、斎藤委員、鈴木委員、鵜浦委員、油山委員、志寒委員、神野委員、山田委員、芹澤委員、今井委員  
吉岡委員(高齢施策担当部長:部会長)、屋澤委員(高齢者支援課長)、浜崎委員(高齢社会対策課長)、風間委員(介護保険課長)、高橋委員(地域医療課長)  
<事務局>  
高齢者支援課
- 4 公開の可否 公開
- 5 次第
  - 1 開会
  - 2 令和2年度若年性認知症講演会実施結果について
  - 3 令和2年度第1回認知症地域生活講座実施結果について
  - 4 第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定に向けて
    - ・第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画答申
    - ・第8期計画関連事業について
  - 5 その他
    - ・第13回認知症フォーラム
- 6 資料
  - 資料1 令和2年度若年性認知症講演会実施結果について
  - 資料2 令和2年度第1回認知症地域生活講座実施結果について
  - 資料3-1 第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画答申
  - 資料3-2 第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画概要
  - 資料4 第8期計画関連事業概要について
  - 参考1 練馬区在宅療養推進協議会設置要綱
  - 参考2 令和2年度第1回練馬区在宅療養推進協議会認知症専門部会要点録
  - 参考3 認知症フォーラムチラシ
- 7 事務局 練馬区高齢施策担当部高齢者支援課在宅療養係  
電話 03-5984-4597

## 8 会議の概要

(事務局)

【出席確認、資料確認】

(部会長)

【挨拶、新任委員の紹介】

(各委員)

【自己紹介】

(部会長)

資料1 令和2年度若年性認知症講演会実施結果について報告を。

(事務局)

【資料1】 説明。共催の担当委員コメントをお願いします。

(委員)

運営にご協力をありがとうございました。124名の参加があり盛況だった。前半は丹野さんの講演、後半は会場の皆さんからの質問にこたえていただく形式にしたが、発症から受診、診断に至るまで生々しい内容の質問が多く当事者として、介護家族としての意識が強い方々が来場されていた。アンケートはできなかったが、コロナウイルスの影響で参加できなかったという声を続々とうかがっている。後半部はYouTubeでも配信をしており400名を超える方に視聴していただき、丹野さんの声が伝わったのではないかと感じる。

実際に認知症を発症してその課題をいかに乗り越えたか、いかに希望を見出したかということではなく、それこそ未来に繋がってオンラインとかLINEを使った認知症支援の在り方を丹野さん自身がお話いただいて、ただの認知症の当事者としてだけでなく、未来予想図としてお話いただいたと感じる。

丹野さんが、私自身が認知症の当事者ではありません。私は認知症という人々のたった一人に過ぎない、当事者ではあるけれども私がすべてではないし、目の前にいる本人のひとりひとりの声に耳を傾けてほしいとおっしゃっていて、練馬区が取り組んでいる本人の声をきく取り組みにも繋がっていくのではと思う。

(部会長)

私も聞かせていただいたが、未来予想図も含めて充実した一日だった。YouTubeを含めて皆さんに見ていただけるとまた新たな視点がみつかるのではないかと感じる。

本件について意見等はいかがか。

(委員)

私も参加させていただいた。ずいぶん前に発症しながらも、生き生きと活躍できる場のある恵まれた環境にあれば本人の認知症もかなり遅らせることができるのかと感じた。参加者に対して発症から8年経ったが大丈夫だと訴えていたのが印象的だった。本人は職場へ行くのにも道に迷うレベルときくが、今回の講演会のように活躍できていることは素晴らしい。活躍できる場や話をしにきてくれる繋がりなど全国のネットワークの必要性や大切さを感じた。とても良かった。

(部会長)

資料2 令和2年度第1回認知症地域生活講座実施結果について報告を。

(事務局)

【資料2】 説明。当日参加された担当委員コメントをお願いします。

(委員)

当日は講師に小規模多機能居宅介護事業所から自分と他1名が同行した。参加者は認知症介護をされているご家族、地域の居宅のケアマネジャーに参加いただいた。小規模多機能型居宅介護の仕組みと事例、看護小規模居宅介護の事例をお話した。資料の自由意見にもあるように、熱心にきいていただき率直な感想をいただいた。

小規模多機能型居宅介護が職員全員で本人はもちろん家族を支えることのできる唯一の仕組みであること、クリニックとの連携についてとりあげたが、受診に同行し本人の代弁をしたり通訳をしたり医療とのつなぎ役をできる部分も小規模多機能の良いところ。本人、家族のしたいことやしたくないことなどを整理しながら柔軟に支援をする仕組みを持ち、それを得意としているサービスであることについて今回は十分にご理解いただけたかと思う。

(部会長)

地域の要として今後も小規模多機能居宅介護事業所に活躍いただきたい。この件について質問等いかがか。

(なし)

資料3および資料4について説明を。

(事務局)

【資料3 - 1】【資料3 - 2】【資料4】 説明

(部会長)

本日区長へ答申が渡り、区長からは本人、家族、関係者全ての方の意見を聞き、答申を踏まえてしっかりとした計画を作るようにとの言葉があった。ぜひ皆様からの意見を頂きたい。

事務局から第8期計画に関連する事業として3つの事業概要の説明があったが、現在新型コロナウイルスにより練馬区も危機的な財政状況になっている。予算が確定するまでは案ということでご理解いただきたい。

本件について、意見、質問等いかがか。

(委員)

病院で地域包括支援センターからの日常の相談業務も含めて、入院相談や、物忘れ外来の受診相談にあっているが、もの忘れ検診の実施について非常にありがたいと思う。入院やもの忘れ外来に繋げるときに、多くの方が、特に認知症については、身体の問題や心配がない方が多くて、どこにも病院にかかれてない方が非常に多い。私たち精神科の単科病院は、かかりつけ医などの医療の情報をできるだけ多く必要とする。入院相談を受けるときどこかに受診してくださいとお願いすることになるため、区にこのような制度があると地域包括支援センターからの相談などに繋げやすくなる。内科面では問題ない方が多いので、どこかで医療機関にかかっておられるという情報は、入院相談、もの忘れ外来の新相談に繋げるにあたっては、ありがたい制度だと思う。制度がまず区にあることが大切だと思う。

(部会長)

他に質問、意見等はいかがか。

(委員)

区でも早期に認知症の方を発見して早期に医療機関へ繋ぐことが大切だと考えている。検診のような機会がないと、ちょっと不安があっても診察へ繋げることが普通の生活ではできない。医師会とも協議させていただきながら仕組み作りをしているところだが、認知症の症状が強い方は区内の医療機関に繋いで支援に繋げ、現状では大丈夫な段階の方も早いうちから介護予防に繋ぎ生活リズムを整えて暮らしていただきたい、検診がそうしたことの入口となる機会になればと考えている。

(部会長)

他に質問、意見等はいかがか。

(委員)

認知症の予防に関してとても重要なことだと思っている。とても良い内容だと思うが、対象者を70歳と75歳の節目としてやっていくようだが、他の年代や年齢でも気にされる方はどのようにしていくのか。また、区民の皆さんに認知していただくために、検診をやっていますよということを皆さんにお知らせする内容の検討も必要だと思う。

(委員)

区では検診を進めていくにあたって、まずは節目の年齢からと考えている。認知症の症状が大きく上がる節目でもあり、運転免許更新時の認知機能検査の対象年齢としても皆さんに周知されている年齢としている。他の健康診査も節目の年齢で行うことが他の年齢の方への啓発になっている部分がある。まだ対象の年齢ではないけど、年齢に達したら受けてみようかなと思っていただけると良い。引き続き対象も含めて検討を続けてまいりたい。

(部会長)

ほかに質問、意見等はいかがか。

(委員)

家族介護者教室をしている立場から意見を発したい。家族介護サロンということでより和やかに話ができる場にしていくことはとても賛成です。やっぱり栄養の話をしているけれども、教室の後でよくよく話を伺って見るとご主人ががんの末期の相談だったというケースもある。一つの専門職だけがやるのではなく、例えばケアマネジャーも入ってサロンを作れるような状態にしていけば、とても幅広い内容にお応えできるようなサロンができるのではないかと思います。

認知症地域生活講座においても、今はニーズが高いと思うので、事業者としての取り組みを伝えていくことにもこの介護サロンが役に立てばいいのではないかと思います。

家族介護者サロンの名前をつけると、現在は介護家族ではない方がなかなかいらっしゃらないという恐れもありますので、それとは別に、未来の認知症の人と未来の介護家族の人に向けた取り組みもしていただければ。あと、何より今コロナ禍で集まるという形式をいかにして私達が保っていけるかがすごく難しいところであるので、その辺も区と協働して考えていきたいと思う。

(委員)

区では家族介護者教室をこれまでも事業者にご協力をいただきながら続けており好評であるが、家族介護における技術的なものは様々な媒体で手に入れることができるようになってきている。世の中の構造が変化し老老介護の世帯が増えている状況をふまえ、もう少し取りつきやすい入口を作ることにより、介護技術を単純に知るよりも介護する方の健康維持やリフレッシュになる、そんな教室ができるとうれしいと考えている。内容についても事業者と協議して充実していきたいと考えている。コロナウイルスについては、家族介護者教室に限らず区の事業のあらゆるところで留意しながら対応していきたい。

(部会長)

家族介護については、家族が孤立しないように、家族にとって何が必要か、皆さんからご意見を伺いながら進めていきたい。他に質問、意見等はいかがか。

(委員)

第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画答申をみたところ、施策3については新型コロナウイルスに関する記述が見受けられない。総論的には、新型コロナウイルスの影響で外出の制限など過度な感染予防策によって認知機能や運動機能が下がってしまっている方がいる。取り組み別の提言のなかで、認知症施策についても感染症を予防しながら安心して参加できる取り組みを考え、コロナ禍の中でどのように取り組んで行くのかを示すことが大切ではないか。

(委員)

今回の第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画答申には幅広く新型コロナウイルスについ

て触れられている。閉じこもりによる身体機能の低下については、問題視されており我々も懸念している。認知症施策についても、今後計画化する際には新型コロナウイルスの対応も踏まえて進めたい。

(部会長)

新型コロナウイルスに関しては今後どうなっていくか見えないところがある。新しい生活様式をどのように捉えるのかが大切である。新型コロナウイルスを踏まえながらも施策全般に皆さんが過ごしやすく活動しやすくなるような取り組みを入れていけると良い。何かあればまたご意見をいただきたい。他に質問、意見等はいかがか。

(なし)

区としても、認知症になっても希望をもって日常生活が過ごせる社会の実現のための取り組みを計画の中に反映できるように今後も皆様の声を聞かせていただきたい。今回の意見の内容は11月18日の在宅療養推進協議会で報告する。また意見を踏まえ第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に関連する事業の具体化や充実に役立ててまいりたい。区では12月に計画の素案公表およびパブリックコメントの実施を予定している。次回の専門部会ではもう少し具体的な事業の姿が示せるのではないか。またご意見をいただきたい。

次第3 その他 【参考3】について説明を。

(事務局)

【参考3】 説明。主催の認知症サポートセンター・ねりまの委員よりコメントをお願いします。

(委員)

第13回目のフォーラムとなる。フォーラムの目的を、人生会議の意義の復旧、認知症を含む当事者のより良い人生を全うしていただくと同時に、家族の精神的負担を軽減する、医療と介護の連携並びに地域包括ケアシステムの確立とし、内容を組み立てた。皆様が介護する方も介護される方もどういうお気持ちできちんと受け入れられるかということを改めて認識していただければと思う。

(部会長)

ありがとうございました。楽しみにしています。案件はすべて終了したが、他に何か発言はいかがか。

(なし)

閉会